

DATA WATCH

「競争力」で見る世界

経済調査部門 研究員 高山 武士
takayama@nli-research.co.jp

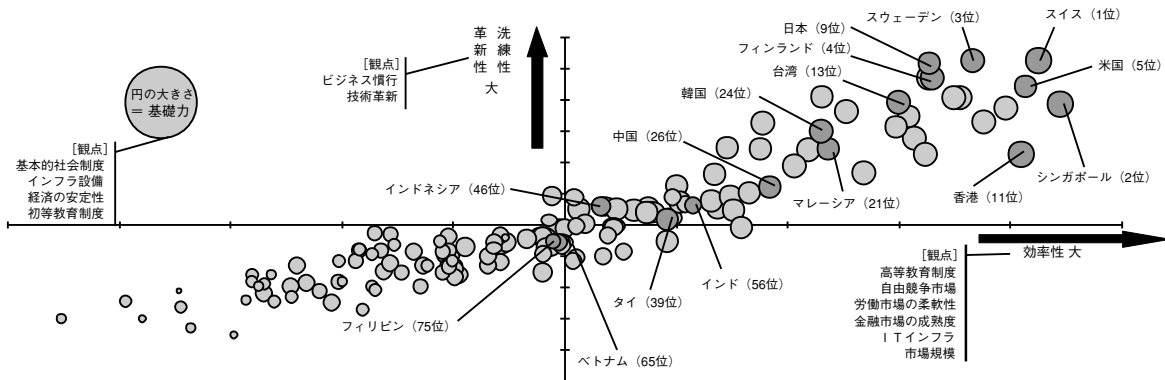
今後、世界の中で発展し、繁栄していく国・地域はどこだろうか。ここでは、繁栄の原動力となる「競争力」についての調査をひとつ紹介したい。WEF（世界経済フォーラム）が毎年公表している「競争力指数」である（図表－1）。

WEFが言う「競争力」の構成要素は、大きく「基礎力」「効率性」「洗練性・革新性」の3つに分類されている。基礎力には基本的社会制度（司法や行政についての仕組み）やインフラ（交通、通信網の設備）といった項目が含まれ、下図では円の大きさを表現した。効率性には労働市場の柔軟性（解雇や雇用についての慣行など）や、金融市場の成熟度（資金調達のしやすさ、銀行の健全性など）が含まれる（図では横軸で表現）。最後の洗練性・革新性というのは、ビジネス慣行（部品業者の質など）や技術革新（研究施設の質など）を指している（図では縦軸で表現）。

さて、下図を見てみると、総じて高所得国が高い評価を得ていることが分かる。ただし、評価されている項目は国によって多様である。例えば、香港やシンガポールでは金融市場の成熟度（効率性）が評価されており、米国は圧倒的な市場規模（効率性）を誇る。スイス、スウェーデン、日本は研究開発の環境（洗練性・革新性）で優位にある。一方、新興経済について見ると、中国では現地で事業を開始することに対する障害が高く（効率性）、インドはインフラが未熟である（基礎力）などの課題を抱える。フィリピンやインドネシアでは汚職（基礎力）が最大のネックとなっている。

アジア新興国の多くは近年、競争力の向上に努めており、高い経済成長を実現している国も多い。しかし、まだ競争力では先進国に及ばない。今後、世界経済の牽引役としての地位を確立するためには、自国の弱みを認識し、克服していく姿勢を続けることが欠かせないだろう。

【図表－1】世界各国・地域の競争力イメージ



(注) 表は競争力指数の構成要素「基礎力」「効率性」「洗練性・革新性」の点数から作成、平均が軸上になるよう標準化した。
カッコ内は競争力（総合指数）の順位。
(資料) WEF "The Global Competitiveness Report 2011-2012" よりニッセイ基礎研究所作成